

熊本地震から学ぶ! 南海トラフ巨大地震等への備えについて

「建築物の耐震改修の促進に関する法律」

阪神・淡路大地震の犠牲者の約8割は、住宅の倒壊等による圧死・窒息死でした。また、倒壊住宅の大半が昭和56年以前(旧耐震基準)に建てられた住宅でした。よって、旧耐震基準の(昭和56年以前)の建築物について積極的に耐震診断や改修を進めることを目的に平成7年12月に「建築物の耐震改修の促進に関する法律」(以後、耐震改修促進法)が施行されました。

耐震改修促進法の改正

平成7年12月に耐震改修促進法が施行された以降、その後に発生した地震規模の見直し等により、2回の改正がありました。

- ①平成16年「新潟中越地震」発生後の平成18年1月に改正(耐震化率目標を導入した「耐震改修促進計画の策定等」)、
- ②平成23年「東日本大震災」発生後の平成25年11月改正(一定規模以上の多数利用建築物等について耐震診断実施義務、結果公表等)

熊本地震から学ぶ

熊本地震は、耐震改修促進法の施行から21年が経過し、耐震改修促進法の改正後の平成28年に発生しましたが、平成25年度の住宅耐震化率は、住宅総数で約85%、内木造約71%(熊本市建築物耐震改修促進計画について(平成28年4月 改訂より)でした。犠牲者の7割以上が住宅の倒壊によるものでしたので、改めて住宅の耐震化の大事さを知ることとなりました。

耐震化が進めば、住宅の倒壊が減り、犠牲者も減る!

「南海トラフ巨大地震等」への備えについて

兵庫県では、「兵庫県耐震改修促進計画」(平成28年3月改訂)で10年後の平成37年の耐震化率目標を97%としています。平成25年4月13日には、淡路島付近を震源とする地震(マグニチュード6.3)が発生し、島内では全壊8棟、半壊101棟、一部破損8,256棟の被害がありました。

南海トラフ巨大地震が発生する前に、住宅の耐震化を済ませておくことが最大の備えである!

※表-1 阪神・淡路大地震 ⇒ 震度7を記録した地震の比較表

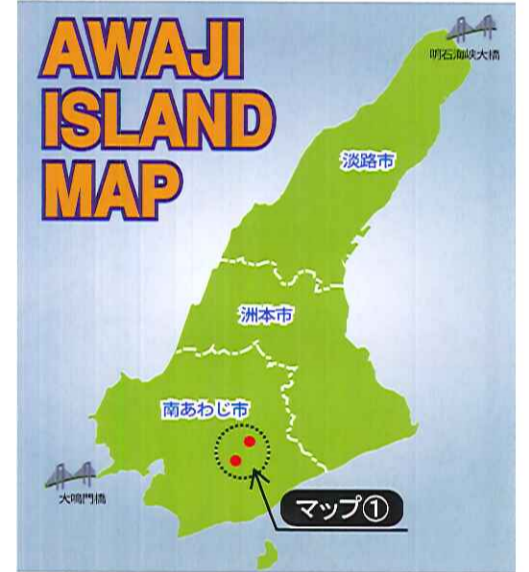
	直下型地震			海溝型地震
	阪神・淡路大震災 (兵庫県南部地震)	新潟県中越地震	熊本地震	東日本大震災 (東北地方太平洋沖地震)
地震の発生日・時刻	平成7年1月17日 5時46分	平成16年10月23日 17時56分	前震:平成28年4月 14日21時26分 本震:平成28年4月 16日1時25分	平成23年3月11日 14時46分
激甚災害指定政令の交付日	平成7年1月25日	平成16年12月1日	平成28年4月26日	平成23年3月13日
地震規模 (マグニチュード)	7.3	6.8	6.5(前震) 7.3(本震)	9.0
震源の深さ	16km	13km	11km(前震) 12km(本震)	24km
余震の回数	100回程度	220回程度	228回(熊本地方のみ、 前震以降の回数)	3,039回
人的被害	死者 6,434人 行方不明者 3人 負傷者 43,792人	死者 68人 負傷者 4,805人	死者 75人 負傷者 1,806人	死者 19,418人 行方不明者 2,592人 負傷者 6,220人
住家被害	全壊 104,906棟 半壊 144,274棟 一部破損 390,506棟	全壊 3,175棟 半壊 13,810棟 一部破損 105,682棟	全壊 8,193棟 半壊 25,328棟 一部破損 122,923棟	全壊 121,809棟 半壊 278,496棟 一部破損 744,190棟 家屋浸水 13,585棟
非住家被害	公共建物 1,579棟 その他 40,917棟	公共建物・その他 41,738棟	公共建物 243棟 その他 1,672棟	公共建物 14,322棟 その他 88,883棟

※表-1、図1の(出典)国立国会図書館調査及び立法考査局 第910号「平成28年(2016年)熊本地震の概況」http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9979249_po_0910.pdf?contentNo=1 →
(注1) 表-1の熊本地震の被害数については、消防庁災害対策本部が平成28年7月7日14:00に発表した資料の数値としています。

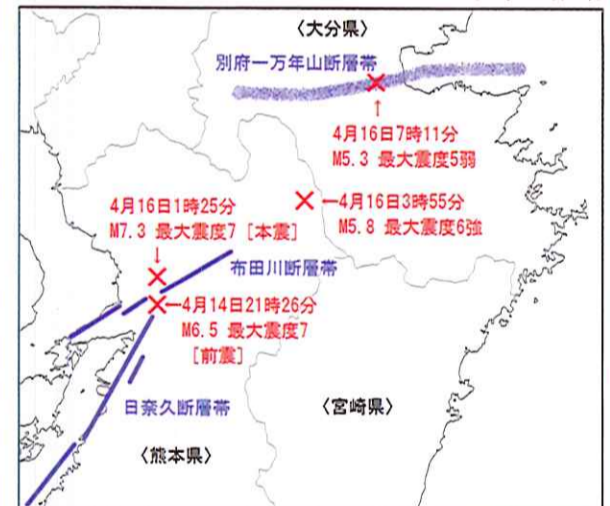
今年の台風第1号の発生時期が過去2番目に遅い7月3日でした。エルニーニョ現象が発生していた翌年は、台風の発生は少ないそうです。しかし、台風の接近・上陸数は例年と変わらないので、台風接近時等の時は、兵庫県ホームページのCGハザードマップを活用して、洪水、土砂災害等の危険区域を確認しておいてね!

兵庫県マスコットは **はぼたん**

『淡路さわやか県土』は、淡路県民局洲本土木事務所の取り組みを広く一般に知ってもらおうと、編集・発行しています。島内の土木事業やまちづくりを中心に、淡路島の風土資産も交えてお伝えしています。



※図1 熊本地震の主な震源地及び断層帯の概略



各市の簡易耐震診断及び耐震改修等の受付窓口

洲本市 都市整備部都市計画課建築係 TEL:0799-24-7611	南あわじ市 建設部都市計画課 TEL:0799-43-5227	淡路市 都市整備部都市計画課 TEL:0799-64-2533
--	---------------------------------------	---------------------------------------

フェニックス共済に加入しよう! 「住宅・家財再建共済制度」があります。

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金 TEL:078-362-9400	少ない掛け金であらゆる自然 災害の“もしも”に備えます。 URL: http://phoenix.jutakusaiken.jp/
---	---

イベント案内 災害にそなえて~かんじる~現地体感バスツアーを開催します。

この現地体感バスツアーは、洲本川河川改修場所や大日ダムなど、防災施設を実際に見てもらおうことで、これからの災害に備えてもらうことを目的に実施します。普段入ることのできないダムの堤体の内部なども見学できます。

見学コース

【集合・解散】
・JR神戸駅
・洲本高速バスセンター



- 実施日時: 平成28年8月23日(火)
- 集合場所: ①JR神戸駅又は ②洲本高速バスセンター (解散も同場所)
- 集合時間等: ①8:45 (18:30 解散) ②9:50 (17:30 解散)
- 参加費: 無料(昼食は休憩場所各自済ませるか、ご持参ください。)
- 定員: 36名(小学生4年以上。小学生は要保護者同伴)
※応募多数の場合抽選
- 申込方法: 7月27日(水)までに申込書に記入の上、FAX又はE-mailにて申し込み(応募多数の場合抽選)
- 詳しくは **兵庫県 現地体感バスツアー** **検索**
- URL: <https://web.pref.hyogo.lg.jp/ks13/genchitaikanbasu.html>
- 申込・問い合わせ先: 兵庫県総合治水課調整班
(電話: 078(362)9265 FAX: 078(362)3942
E-mail: chisui@pref.hyogo.lg.jp)

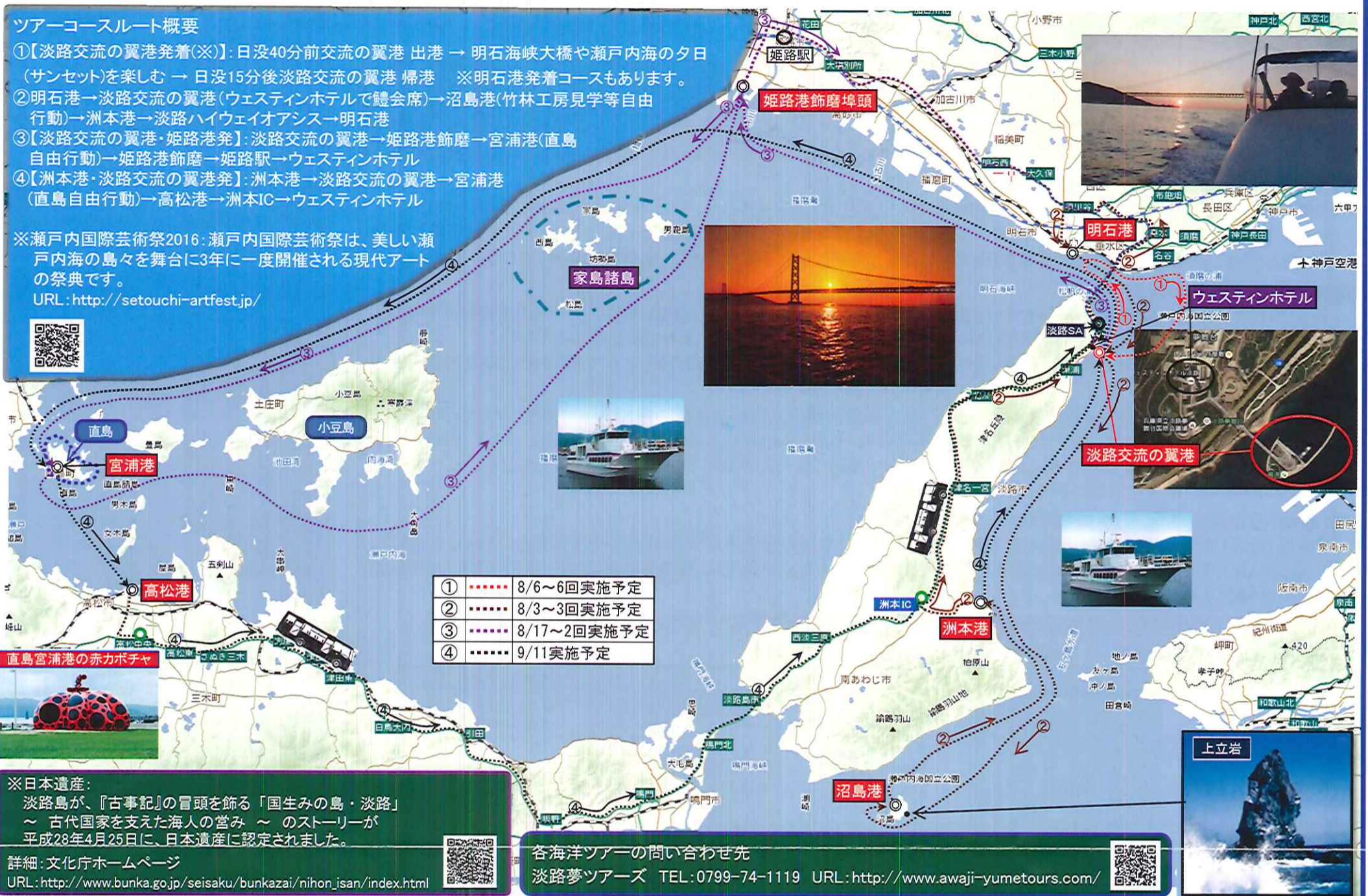
交流の翼港の利活用の推進 ～淡路交流の翼港を活用したクルーズ事業の展開～

今年も、「淡路交流の翼港」の利活用の推進を図るため、①(継)サンセットクルーズ、②(新)沼島をめぐる日本遺産(※)ツアー、③④(新)瀬戸内国際芸術祭2016(※)瀬戸内島めぐり直島ツアー等の海洋ツーリズムを推進しています。

ツアーコースルート概要

- ①【淡路交流の翼港発着(※)】: 日没40分前交流の翼港 出港 → 明石海峡大橋や瀬戸内海の夕日(サンセット)を楽しむ → 日没15分後淡路交流の翼港 帰港 ※明石港発着コースもあります。
- ②明石港→淡路交流の翼港(ウェスティンホテルで観覧席)→沼島港(竹林工房見学等自由行動)→洲本港→淡路ハイウェイオアシス→明石港
- ③【淡路交流の翼港・姫路港発】: 淡路交流の翼港→姫路港飾磨→宮浦港(直島自由行動)→姫路港飾磨→姫路駅→ウェスティンホテル
- ④【洲本港・淡路交流の翼港発】: 洲本港→淡路交流の翼港→宮浦港(直島自由行動)→高松港→洲本IC→ウェスティンホテル

※瀬戸内国際芸術祭2016: 瀬戸内国際芸術祭は、美しい瀬戸内海の島々を舞台に3年に一度開催される現代アートの祭典です。
URL: <http://setouchi-artfest.jp/>



マップ① ■ダムと「ホタルの里」復活をめざした三原中学校の取り組みについて

三原川流域の上流部には、治水(洪水調節)・利水(水道用水・既得かんがい用水等)を目的に、県管理の5ダム(※)が建設されております。その内の諭鶴羽ダム(本体着工/完成年: 1971/1975年)、成相ダム(本体着工/完成年: 1996/2000年)の上流部は、「ホタルの里」の復活をめざし、45年前(1971)から蛍の人工飼育活動を行っている南あわじ市立三原中学校理科部(※)が人工飼育した蛍の幼虫を放流している場所でもあります。6月上旬から中旬には、成虫となったゲンジボタルが暗闇の中で幻想的な光を放ちながら飛び交い、見に来られた多くの人の心を癒してくれます。三原中学校理科部の長年に渡る活動により、ホタルの名所となり、ホタルの鑑賞時期には多くの人がダムを訪れ、ダムの存在を知り、興味を持って貰えるきっかけになることを期待しています。(注: 毎年三原中学校が開催している「観蛍会」に参加することをお勧めします。)

ゲンジボタルの一生

- ① 6月~7月【たまご】川岸の斜面に生えているやわらかいコケなどに、雌1匹あたり約1000個の卵を産みつけます。⇒
- ② 7月~翌年3月【幼虫(初令~終令)】7月に卵からかえり、初令幼虫となります。昼間は小石などの下にかくれ、夜間にカワニナを捕食します。翌年の春までに6回ほど脱皮して、1.5ミリの初令幼虫が、約3センチ近くの終令幼虫となります。⇒
- ③ 4月~5月【さなぎ】4月上旬、サクラの咲く頃の、雨で風のない夜に、成長した幼虫は一斉に水から上がり土にもぐります。そして40日ぐらいでさなぎになり10日ほどで成虫になって地上に出てきます。⇒
- ④ 6月上旬~中旬【成虫】成虫の寿命は通常2~3週間ですが、風雨に叩かれたリクモなどに捕食されて、寿命を全うするものはあまりないそうです。



(※)三原中学校理科部の紹介

1960年代前半までは、淡路島の広い範囲でゲンジボタルが生息していましたが、土壌整備による土砂の流出、生活排水や農薬の影響で蛍のエサとなるカワニナが激減し、1965年以降は蛍の姿をほとんど見かけなくなりました。そこで三原中学校理科部では、1971年(昭和46年)から「ホタルの名所復活」を目指して活動を始め、今年で45年目を迎えています。現在、部員数25名でホタルの人工飼育(※)と放流(諭鶴羽ダムと成相ダム上流部)を行っています。

- *人工飼育(温度管理が重要)
- ①: 6月に親蛍を捕獲し卵を産卵
 - ②: ふ化した幼虫にカワニナを与え飼育

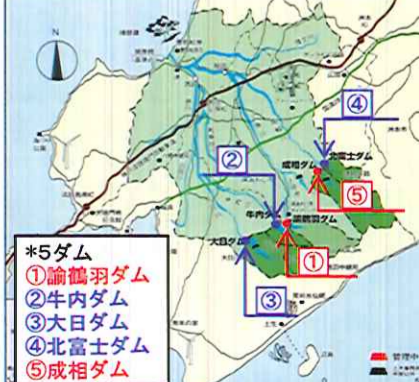


*ホタル水路について

ホタル水路は、約20年前に諭鶴羽ダム上流部にホタルの生育環境を三原中学校と相談しながら、洲本土事務所が作ったものです。特にホタルの幼虫の生育環境に考慮しています。今でもホタル幼虫の放流場所に利用されています。

*「観蛍会」について

毎年三原中学校理科部が開催しています。今年は、6月9日に開催されました。



備える・支える・つなぐ 淡路さわやか県土

【お問い合わせ先】
淡路県民局洲本土木事務所 企画調整担当へ
〒656-0021
洲本市塩屋2丁目4-5
TEL: 0799-26-2055 FAX: 0799-24-4513
URL: <http://web.pref.hyogo.lg.jp/sumotodoboku/index.html>
e-mail: sumotodoboku@pref.hyogo.lg.jp

発行: 平成28(2016)年10月25日

2016

vol.40

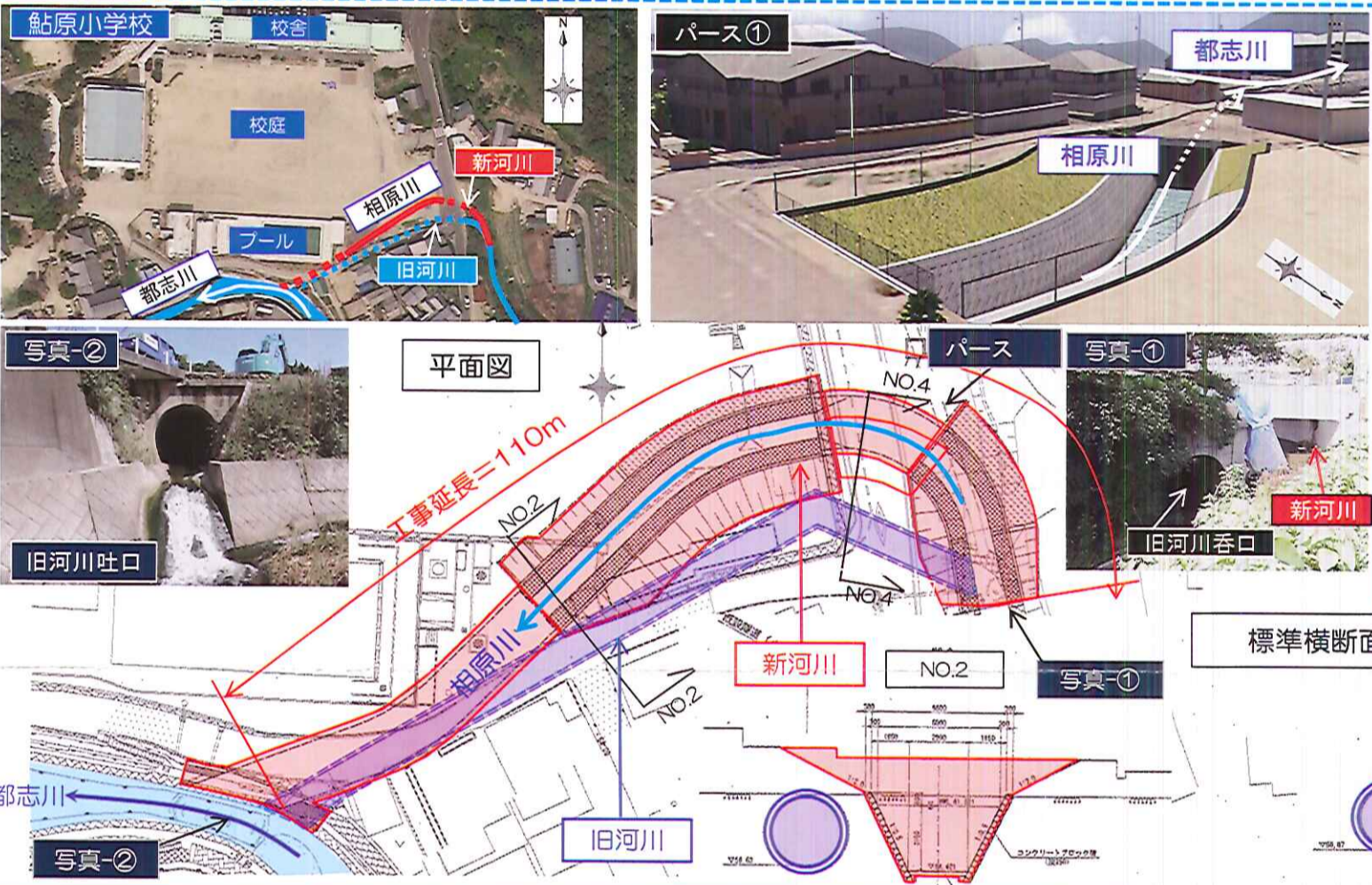
マップ① 県単独河川緊急防災減災事業 相原川隧道改修工事を紹介します。

相原川は、洲本市五色町鮎原地区を流れる二級河川であり、沿川は主に農地ですが、最下流付近は公共施設や民家が立地しており、トンネル形式の相原川隧道により都志川と合流しています。

相原川隧道は断面が狭小かつ線形不良のため、過去から洪水時、隧道に入りきらない河川水が、小学校校庭や神社境内に流れ込み、浸水被害を発生させていました。平成26年には8月と10月の2度に渡り浸水し、児童が校庭や遊具を使用できない状況になったため、学校や地域住民から河川改修の強い要望が寄せられました。

この被害を踏まえ、県は隧道部分の河川改修計画を立案。学校や地元関係者への説明を経て、平成28年4月より改修工事に着手しました。工事の完成により、隧道の流下能力はおよそ3倍になり、平成16年の台風23号や平成26年の豪雨でも安全に流下させることが可能になる予定です。

工事に伴い校庭の一部が使用できなくなりますが、学校側の協力も得ながら、平成29年5月末の完成を目指し地域の浸水被害の防止に取り組んでいます。



今年の8月の天候は、記録ラッシュ!でしたね。台風の日本上陸4個、内3個北海道に上陸、東北地方太平洋側に初上陸。網走で月降水量425mm(平年の8月の4ヶ月分の大雨)、大阪で猛暑日最多23日間等々...!
淡路島に大きな災害が無いよう願っています。

兵庫県マスコットはぼたん

『淡路さわやか県土』は、淡路県民局洲本土木事務所の取り組みを広く一般に知ってもらおうと、編集・発行しています。島内の土木事業やまちづくりを中心に、淡路島の風土資産も交えてお伝えしています。



社会基盤学習の推進 「相原川隧道改修工事」を題材にした出前講座・現地見学会を開催しました。

「相原川隧道改修工事」は鮎原小学校の学校敷地の一部を占有する形で行っていることから、生徒に工事の目的や概要、効果などを説明し、洪水の恐ろしさと治水工事の重要性を伝える出前講座(5年生対象)と現地見学会(全校生徒対象)を開催しました。

また、工事中の安全対策として設置している仮囲い鋼板をキャンバスとして利用してもらい、そこに全校生で描いた「お絵かき」の仕上げ作業を行いました。

出前講座「相原川隧道改修工事」の説明を熱心に聞いている5年生たち



現地見学会の状況(現場説明者からの話しを熱心に聞く生徒たち)



仮囲い鋼板のキャンバスに「月」を入れて「お絵かき」の仕上げを行う



現地見学会に参加した鮎原小学校の全生徒集合



社会基盤学習について

県が推進する環境学習・教育「ひょうごグリーンスクール」の一環として、小・中・高校生を対象に、河川、道路などの社会基盤施設や災害・防災などを題材とした出前講座・現地見学会を実施しています。

学習の内容について

【対象】兵庫県内の小学校・中学校・高等学校
【学習内容】防災工事、水質・生物調査、下水処理、公共交通の役割など
【学習形態】出前講座の実施 現場見学、施設見学 体験学習 その他、ニーズにあわせて相談に応じます

問い合わせ先

淡路県民局
洲本土木事務所
企画調整担当
0799-26-2055

マップ② 「第6回洲本川レガッタ2016」が9月11日に開催されました。

洲本川レガッタは、平成16年10月20日に淡路島を襲った台風23号により多大なる被害を受けた洲本川流域の河川改修工事が完了した平成23年度より開催し、今年で6回目を迎えました。洲本川レガッタは、ボート競技の面白さを広めるとともに、台風23号災害を風化させない取組として行われています。土江 淡路県民局洲本土木所長は来賓挨拶の中で今年の異常気象[6月の九州での記録的な大雨*1や、8月中に4個の台風の上陸(観測史上1962年と並び過去最多)、その内3個が北海道に上陸*3(初めて)等]にふれ、これらに対応するには、河川改修だけではなくため池や田圃の活用など、総合的な治水対策が重要であることを述べました。

ボート競技*4は、ダブル・シングルスカルやナックルフォア、舵手付クォドルプルなど16レース47チームが参加し、笑顔が競技場周辺にあふれていました。



挨拶で異常気象にふれる

土江 洲本土木事務所長



ダブルスカル

洲本川



シングルスカル

洲本川



淡路県民局

建設中の新淡路県民局

舵手付クォドルプル

洲本川



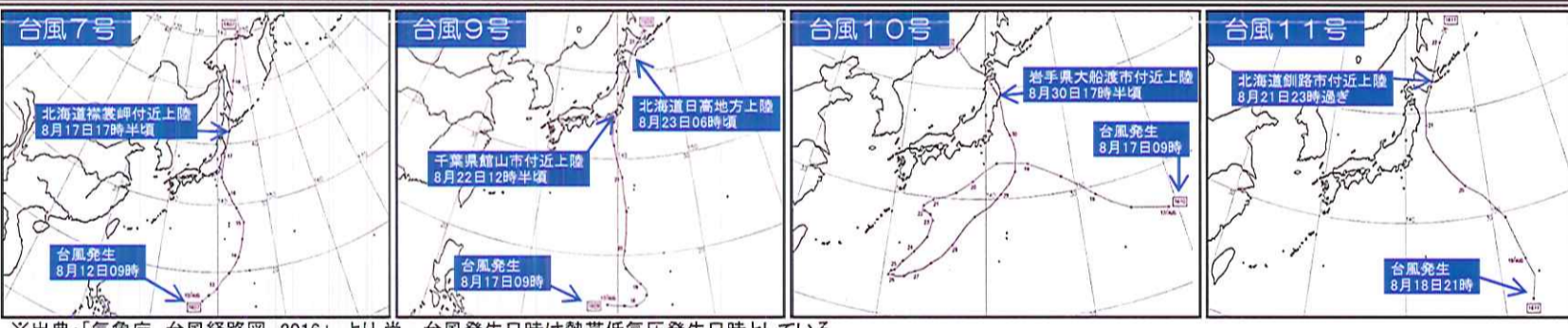
ナックルフォア

洲本川

*1 九州で梅雨前線が活発化し、記録的な大雨を長崎県や熊本県、宮崎県にもたらしました。1時間に100ミリを超えるような猛烈な雨が所々に降り、記録的短時間大雨を記録*2しました。(※2右表の気象庁歴代全国ランキング参照)中でも、熊本県の甲佐では21日、午前0時19分までの1時間に150ミリの雨を観測、これは観測史上、全国の4位タイにのぼるほどの記録的な大雨でした。6月では過去最大の1時間降雨量でした。熊本県では地震による被害に追い打ちをかけるような状態でした。この大雨による土砂災害で熊本県では6人の犠牲者を出しました。

最大1時間降雨量				通年				最大1時間降雨量				6月				
順位	都道府県	地点	観測値 mm	観測日	観測値 mm	観測日	順位	都道府県	地点	観測値 mm	観測日	順位	都道府県	地点	観測値 mm	観測日
2	長崎県	長浦岳	153	1982年7月23日	2	鹿児島県	枕崎	127	2000年6月25日	2	鹿児島県	枕崎	127	2000年6月25日		
3	沖縄県	多良間	152	1988年4月28日	3	熊本県	山都	126	2016年6月21日	3	熊本県	山都	126	2016年6月21日		
4	熊本県	甲佐	150	2016年6月21日	4	長崎県	雲仙岳	124	2016年6月20日	4	長崎県	雲仙岳	124	2016年6月20日		
5	高知県	清水	150	1944年10月17日	5	熊本県	宇土	122	2016年6月20日	5	熊本県	宇土	122	2016年6月20日		

*3 8月に上陸した台風4個は、1962年と並び最多となりました。また、北海道に3つの台風が上陸したこと、又、台風が東北地方太平洋側に上陸(台風10号)したのは、気象庁が1951年に統計を開始して以来、初めてでした。よって、北海道の各地で大雨をもたらし、特に網走では月降水量425mm(平年の8月の4ヶ月分と記録的な大雨となりました。



※出典:「気象庁 台風経路図 2016」より尚、台風発生日時は熱帯低気圧発生日時としている。

■ *4ボート競技豆知識

ボートの競技大会⇒レガッタともいいます。 **「東京オリンピックに淡路島から代表選手を送りだそう!」**
 ● レース艇の種類: シェル艇*①とナックル艇*②の2種があります。シェル艇は、耐久性やバランスのとりにくさる程度犠牲にしても、スピードが出やすいようにつくられています。ボート競技に使用されているのはシェル艇です。ナックル艇は、一般的に頑丈でバランスがとりやすいために、主に初心者及び練習用に使われています。

[*①: シェル艇とは底の形が貝殻(シェル)に似ていることからそう呼ばれています。FRPや炭素繊維などの新素材を使用して、強く、軽く、滑らかな外板となり、スピードが出やすくつくられています。
 *②: ナックル艇とは底の形が拳(ナックル)に似ていることからそう呼ばれています。]

● 競技の種目: スウィープ(両手で一本のオールを持って漕ぐ種目)とスカル(両手に一本ずつのオールを持って漕ぐ種目)とに分かれます。

【参考】2016 リオオリンピック ボート競技種目は、下記の表のとおり *日本選手参加種目は、男女共軽量級ダブルスカルで、15位と12位でした。

種別	男子	女子
スウィープ	① 軽量級舵手無しフォア(漕ぎ手4人) ② 舵手無しフォア(漕ぎ手4人) *舵手付(日本の競技) ③ 舵手無しペア(漕ぎ手2人) *舵手付(日本の競技)	① 舵手無しペア(漕ぎ手2人) *舵手付(日本の競技) ② エイト(漕ぎ手8人+舵手1人)
スカル	⑤ 軽量級ダブルスカル(2人) ⑥ ダブルスカル(2人) ⑦ シングルスカル(1人) ⑧ クォドルプル(4人) *舵手付(日本の競技)	③ 軽量級ダブルスカル(2人) ④ ダブルスカル(2人) ⑤ シングルスカル(1人) ⑥ クォドルプル(4人) *舵手付(日本の競技)

マップ③ 「津波防災フォーラム2016」及び「福良うずまるフェスタ」が9月22日に開催されました。

「津波防災フォーラム2011」を開催して以来毎年、南海トラフ巨大地震による想定津波高が県内最大となる福良地区で開催されています。津波防災フォーラムでは、①防災講演「熊本地震などにおける避難所の状況について」を聴後、②ダンボールベッドの組立演習や③非常食の試食などを通じて、避難所生活を疑似体験することにより、避難所生活での問題点等について意見交換を行い避難所生活がどうあるべきかについて考える。福良うずまるフェスタでは、①福良路地裏探訪②水消化器的当てゲーム③防災クイズ等が行われました。



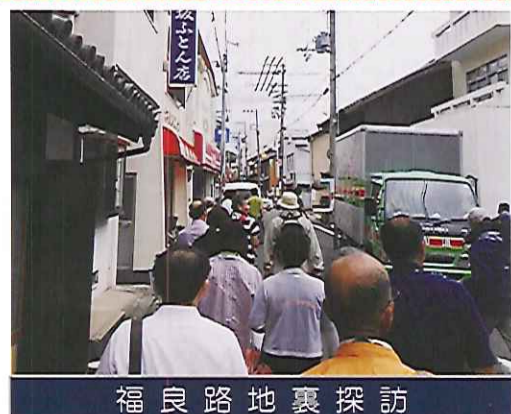
津波防災フォーラム2016開催者挨拶



ダンボールベッドの組み立て演習



非常食の試食



福良路地裏探訪

■ 高速バスのIC化の促進

交通系ICカード導入により高速バス
利用者の利便性の向上を図ります。

～淡路地域に乗り入れる高速バスのICカードサービス開始について～

鉄道のない淡路島において、バス交通は、地域の住民の日常の移動手段としてはもちろん、国内外から訪れる観光客やビジネス客等の貴重な交通手段であり、欠くことのできない重要な役割を担っています。しかし、他地域では異なる交通事業者間で利用可能なICカード化が進んでいるものの、淡路地域を運行するバス車両には導入されていない状況でした。

そこで、県と淡路島内の3市は、事業者へICカード導入要望及び支援を行い、神戸～淡路島内をつなぐ高速バスの利便性向上に努めてまいりました。この度、淡路地域に乗り入れている6事業者のうち2事業者で交通系ICカードサービスが開始されましたのでお知らせします。

1. 交通系ICカードサービス

(1) 導入事業者

本四海峡バス株式会社、西日本JRバス株式会社の2事業者

(2) サービス開始日

平成28年12月1日(木曜日)

また、サービス開始を記念して、セレモニーが洲本バスセンターで開催されました。

便利だね!

カード1枚、①乗車時、②降車時にカードリーダーにタッチするだけで、運賃精算が出来、乗り降りがスムーズに行えます。

県、3市、本四海峡バス、西日本JRバスによるテープカット



インフルエンザが流行しているから気を付けてね! 地域によっては学年・学級閉鎖の報告も増加しているよ。咳エチケット(咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクを着用)、帰宅したら手洗いを励行など、インフルエンザの予防に心がけてね!

兵庫県マスコットはぼたん

『淡路さわやか県土』は、淡路県民局洲本土木事務所の取り組みを広く一般に知ってもらおうと、編集・発行しています。島内の土木事業やまちづくりを中心に、淡路島の風土資産も交えてお伝えしています。



(3) 導入路線「下図参照」

- かけはし号: 洲本BC・津名港 ~ 高速舞子・三ノ宮BT・新神戸駅・大阪駅
- 大磯号: 東浦BT・大磯港 ~ 高速舞子・三ノ宮BT・新神戸駅
- くにうみライナー: 陸の港西淡 ~ 高速舞子・三ノ宮BT・新神戸駅

本四海峡バス、西日本JRバス共同運行路線
本四海峡バス単独運行路線



(4) 主なサービス内容

カード1枚で運賃精算ができ、乗り降りがスムーズに行えます。以下の10種類の交通系ICカードが利用可能となります。

○2013年3月23日より合計10種類の交通系ICカードの全国相互サービス(10カードサービス)が開始。

KitaCa(キタカ) JR北海道	Suica(スイカ) JR東日本	PASMO(パスモ) 民鉄系
TOICA(トイカ) JR東海	manaca(マナカ) 民鉄系	ICOCA(イコカ) JR西日本
SUGOCA(スゴカ) JR九州	はやかけん 福岡市交通局	nimoca(ニモカ) 西鉄
PiTaPa(ピタパ) 民鉄系		

この度、2事業者が導入したICカードです。将来の運賃割引サービスにも対応可能です。

国土交通省 (2015年4月1日現在)

全国相互サービスエリア

福岡SUGOCAエリア はやかけんエリア nimocaエリア	新潟Suicaエリア Suica JR東日本	KitaCaエリア KitaCa JR北海道
SUGOCA JR九州 はやかけん 福岡市交通局 nimoca 西鉄	中国ICOCAエリア PiTaPaエリア ICOCA JR西日本 PiTaPa 民鉄系	仙台Suicaエリア Suica JR東日本 PASUMO 民鉄系
長崎SUGOCAエリア SUGOCA JR九州	近畿ICOCAエリア PiTaPaエリア ICOCA JR西日本 PiTaPa 民鉄系	首都圏Suicaエリア PASUMOエリア Suica JR東日本 PASUMO 民鉄系
鹿児島SUGOCAエリア SUGOCA JR九州		TOICAエリア manacaエリア TOICA JR東海 manaca 民鉄系

(5) 今後の予定

残る4事業者①淡路交通(株)、②神姫バス(株)、③山陽バス(株)、④みなと観光バス(株)については、東京オリンピック開催前年である平成31年度までの導入を目指します。

10種類の交通系ICカードの1つである「PiTaPa(ピタパ)」について(この度の運行路線に導入)

PiTaPa以外の交通系ICカードは、全てプリペイド(前払い)方式ですが、PiTaPaはポストペイ(後払い)方式です。ポストペイではプリペイドのようなチャージがPiTaPa利用エリア以外必要ありません。また、PiTaPaは月締め段階で利用実績に応じて自動的に割引が行なえるようになっています。たとえばひと月の利用額に応じての割引、ひと月に同じ運賃の区間を11回以上利用すると割引等があります。

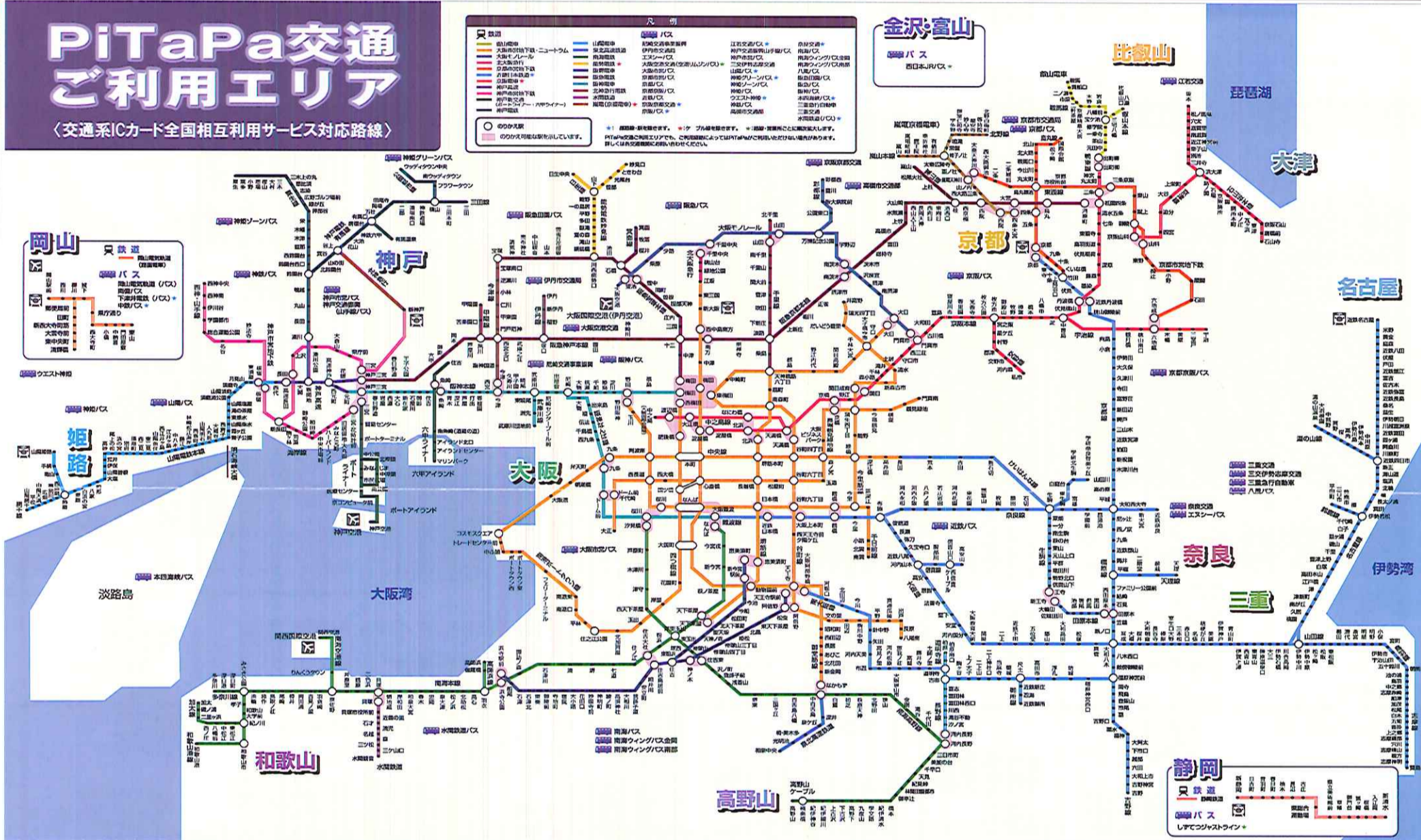
しかし、現状の回数券割引(4枚綴り⇒片道運賃×0.9×4)、往復割引(片道運賃×2×0.9)等、月単位での利用実績でない割引に対してどう対処するか...等の課題がありますので、残る4事業者の導入状況やICカードの利用実態を見ながら検討していきます。今回のIC化では、割引運賃の設定が重要ですのでPiTaPaとしています。もちろん交通系IC(10カード)は全て利用可能です。代表的な使用例を紹介します。近畿圏で主に使用されている交通系ICカードは、私鉄系のPiTaPaとJR系のICOCAです。①淡路島(高速バス)⇒私鉄系の電車に乗り継ぐ場合、下図のPiTaPa利用エリアならチャージの必要なし、②淡路島(高速バス)⇒JR系の電車に乗り継ぐ場合、JR系の電車はPiTaPa利用エリア外なので事前チャージが必要です。

「PiTaPa(ピタパ)」の申し込み方法について

PiTaPaカードをお申込みの場合は、スルッとKANSAIホームページからwebでお申込みする方法と、郵送でお申込みする方法があります。

郵送の場合は、本四海峡バス乗車券発売窓口または洲本市、南あわじ市、淡路市の下記窓口に設置しております。

スルッとKANSAIホームページから申込みする場合		郵送の場合	
https://www.pitapa.com/direct/agreement/online.html (PiTaPa ベーシックカード申込用)		本四海峡バス乗車券発売窓口	
PiTaPaに関する問い合わせ先 PiTaPaコールセンター 0570-014-111(9:00~17:00年中無休)※この電話は大阪へ着信し、通話料はお客様負担となります。※大阪06-6445-3714でも承ります。		洲本バスセンター: tel:0799-24-0001 東浦バスターミナル: tel:0799-74-0600	3市公共交通担当窓口 洲本市: 企画課窓口 tel:0799-24-7614 南あわじ市: 都市計画課窓口 tel:0799-43-5227 淡路市: 都市総務課窓口 tel:0799-64-2125



淡路・徳島交流連携事業 淡路・徳島交流少年野球大会及び野球教室を紹介します。

兵庫県淡路県民局と徳島県は平成20(2008)年に「淡路・徳島交流連携推進協議会」を立ち上げ、観光、文化、産業など様々な分野で交流・連携を図っています。近年では「鳴門の渦潮」世界遺産登録に向けた取り組みでも連携を行っています。その淡路・徳島連携事業の一環として、少年野球を通じて淡路と徳島の子供たちの友情を育み、交流を促進するとともに、一流の選手との触れあいによってスポーツに勤しむ子供達の夢を育てることを目的に、淡路県民局と徳島県の主催による「淡路・徳島交流少年野球大会(2008~第9回)」、及び河平会(代表 河野佳史)主催による「阪神タイガース現役選手による少年野球教室(2003~第14回)」を開催しました。主に平成15(2003)年に供用開始し、新たに屋内練習場を整備する「県立淡路佐野運動公園」で開催しています。

大会概要: 淡路と徳島の軟式少年(小学生)野球交流戦(8チームで、各チーム2試合) 会場: 県立淡路佐野運動公園 第1、第2野球場

野球教室: 野球大会に参加した8チーム、会場: 県立淡路佐野運動公園 第1野球場



備える・支える・つなぐ 淡路さわやか県土

【お問い合わせ先】
淡路県民局洲本土木事務所 企画調整担当へ
〒656-0021
洲本市塩屋2丁目4-5
TEL: 0799-26-2055 FAX: 0799-24-4513
URL: <http://web.pref.hyogo.lg.jp/sumotodoboku/index.html>
e-mail: sumotodoboku@pref.hyogo.lg.jp

発行:平成29(2017)年3月25日

2017

vol.42

待望の新洲本総合庁舎が完成しました。

旧庁舎は昭和44年に建設され、以降、県政推進の拠点施設として、淡路地域における多様なニーズや地域課題に対応してきましたが、平成7年の阪神・淡路大震災や平成16年の台風23号に加え、平成25年の淡路島地震など、大規模な災害に度々遭い、躯体の劣化が進んでいました。

また、昭和56年以前の建築物のため「建築物の耐震改修の促進に関する法律」による耐震診断により、耐震性能が最も低いE判定で、震度5強の地震でも倒壊の危険性があること及び当庁舎は、災害発生時には、地域における災害援助・応急活動の拠点となり、耐震性能も含めた高い災害対応能力を有する必要があること等から、発生が想定されている南海トラフ巨大地震の想定震度や津波被害にも耐えられる災害に強い庁舎に、早急かつ優先的に建替整備を行う必要がありました。

建替工事に先駆け、洲本健康福祉事務所、中央子ども家庭センター洲本分室、ハローワーク洲本が、平成27年3月に仮設庁舎に移転し、平成27年8月から建替工事に着手し、平成29年1月に完成を迎えることとなりました。この間、来庁者の方には、大変迷惑をおかけしました。

尚、今後は、平成29年7月から旧庁舎の解体に取り掛かり、跡地には来年3月末までに駐車場を整備する予定です。再度、来庁者の方には、大変迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

2011年3月11日に発生した東日本大地震は、今年で6年を向かえます。この地震により、津波発生規模の見直し・原発事故の怖さ、再生可能エネルギーの急速な開発等、発生が想定されている南海トラフ巨大地震を考える多くの教訓を残してくれました。これからも、2011年3月11日に起きたことを風化させないようにしましょう。

兵庫県マスコット はぼたん

『淡路さわやか県土』は、淡路県民局洲本土木事務所の取り組みを広く一般に知ってもらおうと、編集・発行しています。島内の土木事業やまちづくりを中心に、淡路島の風土資産も交えてお伝えしています。

新庁舎の基本コンセプト

基本方針
1

災害に強く、災害発生時の拠点機能を発揮する庁舎

- 高い耐震強度を持つ鉄骨鉄筋コンクリート造り
- 津波に備え、基礎部分を1メートルかさ上げ
- 72時間以上稼働可能な非常用発電機を屋上に設置

基本方針
2

質の高い行政サービスを効率的に提供できる庁舎

- 来庁者の多い事務所を低層階に配置
- 機能的な執務環境の整備
- OAケーブルを床下配線にしたフリーアクセスフロア

基本方針
3

県民誰もが安全・快適に利用できる庁舎

- 多機能トイレ、廊下と階段に手すりを設置
- 分かりやすい案内誘導表示
- 県民ホール、県民相談室、情報発信コーナーの設置

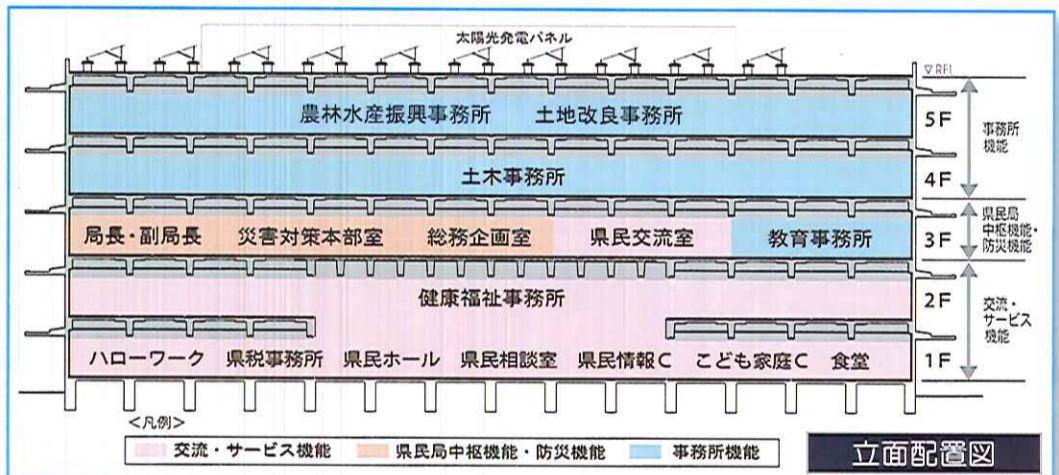
基本方針
4

環境に配慮した庁舎

- 太陽光発電パネルの設置やガラス面を多くした自然採光利用など、自然エネルギーの積極的な導入
- 個別対応型空調設備やLED照明の導入など、省エネルギー対策とコスト削減
- 駐車場の芝生化、植栽による敷地の緑化



平成29年1月21日 洲本総合庁舎竣工式



立面配置図



新庁舎完成
(現在全ての業務は新庁舎に移っています)



旧庁舎平成29年7月から解体予定



立体駐車場完成



「鳴門海峡の渦潮」の世界遺産登録に向けた取組について



兵庫県では、徳島県と連携し、鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録に向けて、学術調査研究や普及啓発活動を実施しています。

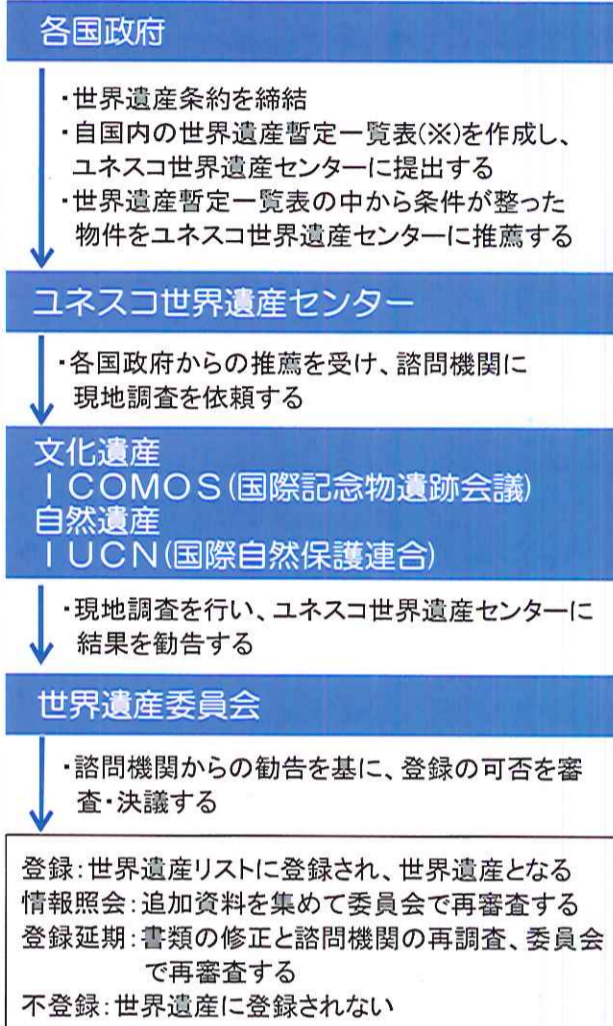
鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録に向けた取組として、平成26年12月18日に、兵庫・徳島両県の行政、議会・議員、関係団体が一体となって“兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会”を設立し、兵庫県側が自然分野、徳島県側が文化分野の学術調査を担当するほか、普及啓発活動を行っています。

平成29年3月8日には、平成28年度推進協議会総会を南あわじ市で開催し、自然分野、文化分野それぞれの学術調査検討委員会からこれまでの学術調査の成果とともに、自然分野学術調査の今後の方向性として、世界遺産暫定一覧表記載のための提出文書(素案)の作成に向けて、国内外の渦潮との比較調査などを進めることが報告されました。

世界遺産登録には、学術調査による普遍的価値の証明とともに、地元の活動気運を高めるためのPR活動も必要です。この度、「うずしお科学館」がその拠点施設としてリニューアルされ、3月8日に完成式典が行われ、3月18日からグランドオープンとなりました。

皆様には、是非「うずしお科学館」を訪れて、渦潮の発生メカニズムやその魅力、美しさを知っていただきたいと思います。

世界遺産登録の流れ



※世界遺産暫定一覧表

世界遺産条約締結国が世界遺産として価値を有していると考え、将来推薦を行う意思のある物件のリスト

「うずしお科学館」

「うずしお科学館」のある大鳴門橋記念館は、昭和60年の大鳴門橋完成を記念して兵庫県が建設した施設ですが、県の第3次行革プランにより、平成28年3月に県から南あわじ市へ移譲が決定しました。また、移譲に伴い、記念館の老朽化対策及びうずしお科学館を世界遺産をめざす拠点施設とするため、その改修費等として3億8800万円を交付することも決定しました。市は、この資金を利用して、記念館の老朽化対策工事及びうずしお科学館のリニューアル改修工事を実施し、この3月に完成の運びとなりました。

うずしお科学館リニューアル後の特徴

館内をスムーズに鑑賞できる動線に変更し、目的別の4ゾーン(エントランスゾーン、うずしおゾーン、体験学習ゾーン、世界遺産ゾーン)に分けました。これにより、渦潮の神秘的な自然的価値や古来から愛されてきた文化的価値を広く発信し、子供から大人までが楽しく、体感的に学べる施設に生まれ変わりました。

3月8日の完成式典のテープカット

世界遺産ゾーン

体験学習ゾーン

うずしおゾーン

鳴門

黒い影が渦

淡路島

渦潮を再現する水理模型

地球・月等に変化

渦潮の発生と宇宙の関係を体感する

400インチの大型映像



おしらせ! 淡路島総合公共交通情報誌「あわじ足ナビ」について

淡路島の公共交通(高速バス、路線バス、3市コミュニティバス、旅客船)の時刻表等を一冊にまとめた淡路島総合交通情報誌「あわじ足ナビ」を(平成29年4月現在)の情報に改訂し、4月1日より発行予定となりますので、おしらせします。

「あわじ足ナビ」平成26年8月に発行以来、この度で4回目の発行となります。

また、「日本遺産に認定された淡路島」の観光地で日本遺産にまつわる箇所には、日本遺産のロゴマークを付していますので、ぜひ公共交通で日本遺産めぐりを楽しんで下さい。

- ①冊子名: 淡路島総合公共交通情報誌「あわじ足ナビ」(2017年4月1日) 様式: 本冊→A4判サイズ44ページ、路線・観光マップ図→A2
- ②配布場所: 淡路県民局、洲本市役所、南あわじ市役所、淡路市役所の案内窓口、(一社)淡路島観光協会の各案内所・淡路交通(株)、本四海峡バス(株)の乗車券販売所・神姫バス(株)三ノ宮ターミナル、姫路ターミナル・ミト神戸三宮バスターミナル、高速舞子バス停・淡路市明石港観光案内所他

お知らせ: 「あわじ足ナビ」の発行は、兵庫県淡路県民局 洲本土木事務所から下記の淡路島観光協会に移行しております。

問い合わせ先: 一般社団法人淡路島観光協会 TEL: 0799-25-5820 FAX: 0799-25-5821 HP: <http://www.awajishima-kanko.jp>



■ 1. 17を忘れない! 「阪神・淡路大震災22年追悼事業」が淡路市等で実施されました。

今年も1月17日に「北淡震災記念公園」等で、追悼行事・防災啓発及び訓練が実施され、震災23年目へ新たな誓い(ひょうご安全の日宣言・右文)を淡路県民局長が読み上げました。



島内の犠牲者と同じ63本の竹灯籠を流し供養

「ひょうご安全の日宣言」

阪神・淡路大震災から22年が経った 私たちは国内だけでなく 世界の多くの人たちにも この教訓を知ってもらいたい 活かしてもらいたい そのように願って 伝え続けてきた

2年前に国連防災世界会議が開催された 阪神・淡路大震災の教訓は、仙台防災枠組にもひきつがれ 減災社会実現のための 人類の知恵となり 創造的復興は 世界の防災の目標となった

でも 地球の温暖化はさらに進み 台風が北海道や東北でも大暴れするなど 経験したことのない風水害の多発・激化に驚くばかりだ 隣国の台湾や韓国でも大きな被害が出た

熊本地震では 2回も立て続けに起こった震度7を経験し 引き続き 震度1以上の余震が4千回も起こり 人びとは 長い間 恐怖にさらされた 鳥取では 歴史のある街並みが地震で被災した 災害は新たなステージに入ったのだ

次なる災害に備えるには もっと対策を進めなければならない 油断して他人事と思えば つぎに被災するのは自分たちだ 災害文化を豊かにして 安全 安心社会に向かうのだ

伝える 備える 活かす 阪神・淡路大震災の教訓を 震災の教訓は すべての災害に通じる知恵だから

2017年1月17日 ひょうご安全の日推進県民会議 会長 兵庫県知事 井戸 敏三